

平成26年度 協働事業・市民活動助成事業 事業紹介



協働事業



市民活動助成事業



市民活動助成事業



市民活動助成事業



市民活動助成事業



市民活動助成事業



市民活動助成事業



市民活動助成事業



市民活動助成事業

松戸市

はじめに

松戸市では、「豊かで活力ある地域社会の実現」をめざして、市民及び市民活動団体、民間事業者と市による「協働のまちづくり」を推進しております。

その支援として、市民活動団体・民間事業者の活力を活かし、市と事業の企画から実施までを協力して行う「協働事業提案制度」と、新たな市民活動の立ち上げや既存の活動を発展させる「市民活動助成制度」があります。

【協働事業提案制度】

協働事業は、市民活動団体や民間事業者と行政のそれぞれが強みの部分を活かし、身近にある地域課題の解決に向けて、協力して実施する事業です。

協働事業提案制度は、市民活動団体や民間事業者が、協働事業を提案し、市と協力して、その事業を企画し、実施する制度です。

平成 26 年度は 1 事業実施しました。

【市民活動助成制度】

新たな市民活動を立ち上げるため、又は、既存の活動をさらに発展させるための事業に要する一時的な資金を助成することで、市民活動の活性化を図り、豊かで活力ある地域社会の実現に貢献することを目的とします。

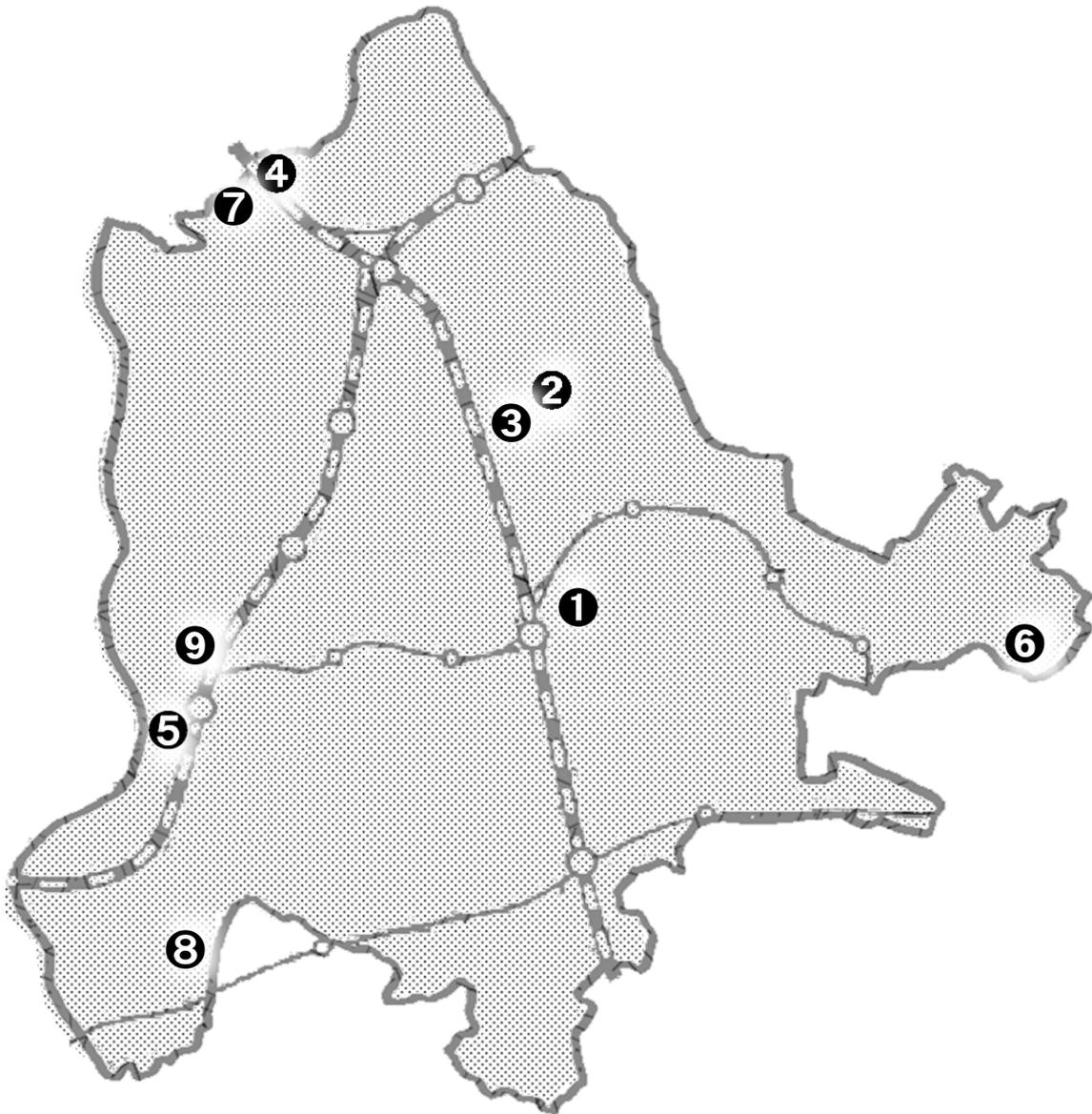
平成 26 年度は 8 事業実施しました。

目 次

平成26年度協働事業・市民活動助成事業 紹介冊子

【協働事業】	ページ
○ 松戸の農業サポート・農業ボランティア養成事業	松戸農業サポート協議会 農業ボランティア部 野良の会 農政課 1
【市民活動助成事業】	ページ
○ 自主防災告知と訓練事業	栗ヶ沢中学校地域防災委員会 2
○ 市民後見人養成講座事業	認定NPO法人 東葛市民後見人の会 3
○ 外国人の子どもと日本人の子どもが触れ合う集い事業	認定NPO法人 外国人の子どものための勉強会 4
○ 伝えたい大震災の記憶・学びたい大震災の体験の講演会等のイベント事業	東日本大震災復興支援 松戸・東北交流プロジェクト 5
○ けん玉で遊ぼう事業	昔のあそびと遊ぼう会 6
○ 日帰り滞在型観光「“葵の里”観光ガイド(チラシ)の作成」事業	まっど学びの旅推進協議会 7
○ 「知っておくと安心！食品の安全な取り扱い手帳」の作成事業	食の安全安心を考える市民の会 8
○ 働きたい子育て中の主婦のための在宅パソコン講習事業	特定非営利活動法人 就労サポート・キャリアプラス 9
● 協働のまちづくり基金について	10
● 協働のまちづくり基金 寄附者一覧(平成26年度)	11

実施団体の活動拠点MAP



		団体名	活動拠点	ページ
協働 事業	①	松戸農業サポート協議会 農業ボランティア部 野良の会	日 暮	1
	②	栗ヶ沢中学校地域防災委員会	小 金 原	2
市民 活動 助成 事業	③	認定 NPO 法人 東葛市民後見人の会	八ヶ崎	3
	④	認定 NPO 法人 外国人の子どものための勉強会	新 松 戸	4
	⑤	東日本大震災復興支援 松戸・東北交流プロジェクト	松 戸	5
	⑥	昔のあそびと遊ぼう会	六 実	6
	⑦	まつど学びの旅推進協議会	新 松 戸	7
	⑧	食の安全安心を考える市民の会	下 矢 切	8
	⑨	特定非営利活動法人 就労サポート・キャリアプラス	根 本	9

協働事業

松戸の農業サポート 農業ボランティア養成事業	協働事業者	松戸農業サポート協議会 農業ボランティア部 野良の会
	事業担当課	農政課

【事業内容】

<p>平成 26 年度事業の取り組み</p> <p>1 ボランティア養成講座及びボランティア募集</p> <p>(1) 第 6 期(春期)ボランティア養成講座実施 平成 26 年 5 月 31 日～6 月 28 日 応募者 14 名 (会員登録者 7 名)</p> <p>(2) 第 7 期(秋期)ボランティア養成講座実施 平成 27 年 2 月 14 日～3 月 8 日 応募者 14 名 (会員登録者 11 名)</p> <p>(3) 講演会の開催(写真) 2 月 8 日(日) 13:30～15:30 松戸市民劇場 参加者 15 名 「野良の会 講演会」 講師: NPO 法人日本園芸療法研修会 澤田みどり先生</p> <p>(4) 慰労交流会 12 月 7 日(日) 12:00～16:00 JA とうかつ中央馬橋経済センター 参加者 40 名</p> <p>(5) PR 活動 10 月 5 日(日) まつど祭り(松戸駅西口デッキ) 11 月 23 日(日) まつど大農業まつり(21 世紀の森) 3 月 7 日(土) 第 12 回 NPO 市民活動見本市</p> <p>※他、月定例マッチング及び運営会議。</p>	<table border="1"> <tr> <td>事業費</td> <td style="text-align: right;">396,666円</td> </tr> <tr> <td>自己資金</td> <td style="text-align: right;">156,666円 (労力換算額: 317,500円)</td> </tr> <tr> <td>負担金</td> <td style="text-align: right;">240,000円</td> </tr> </table>	事業費	396,666円	自己資金	156,666円 (労力換算額: 317,500円)	負担金	240,000円
事業費	396,666円						
自己資金	156,666円 (労力換算額: 317,500円)						
負担金	240,000円						



平成 26 年度事業の成果

協働の大きなテーマは「市民参加型農業による持続・拡大」

《ボランティア・農家数》

(1) ボランティア者数 目標 55 人が実数 68 人に。

(2) 受け入れ農家数 目標 15 戸が 10 戸

《受け入れ農家作付面積》

1 戸当り 10%アップ目標 参加 10 戸中 4 戸の会員農家からは作付の面積が増えたとの報告を受けている。

《その他》

(1) 広報宣伝用プロモーション DVD 作成

(2) 広報宣伝用活動紹介ハンドブック作成

【協働事業者紹介】

「農作業を希望する方」と「受け入れ農家の方」、双方が会員として登録し組織。「松戸の農業を支えたい」この思いを基に、松戸農業サポート協議会は、まず農業ボランティア部として「野良の会」を発足。まさに「市民参加型農業」を仕組みとして根付かせることを大きな目標に掲げている。

《問合せ先》 松戸農業サポート協議会 農業ボランティア部 野良の会

〒270-2253 千葉県松戸市日暮 1-5-9 グリーンプラザ八柱 3-603

電話 090-6019-4506 (会長 笹山誠二)

E-メール matsudonora@yahoo.co.jp

ホームページ <http://matsudonogyo.web.fc2.com/> 担当 笹山誠二

自主防災告知と訓練事業	団体名	栗ヶ沢中学校地域防災委員会
--------------------	-----	----------------------

【事業内容】

平成 26 年度事業の取り組み

栗ヶ沢中学校地域防災委員会は、地震などによる大災害時に栗ヶ沢中学校をはじめとする地域内の松戸市指定避難所の円滑な運営、及び地域の要援護者の救援方法について検討を重ねてきた。その中で最も大きな課題として浮かび上がったのは避難所を利用する地域住民の動きそのものである。

そこで平成 24 年度助成金による自主防災告知事業を行い、いざという時の避難行動と、避難先である収容避難所の役割を知ってもらう為の告知活動を行った。

しかし期間はわずか一年間であり、効果は限定的であった。よって自主防災告知を継続して行った。

また、当委員会の設立目的の一つである収容避難時の開設や運営方法については、多数の文献を参考に、地域の収容避難所に即した開設方法と運営方法を委員会で話し合いまとめ、また、実際に訓練で試す事を行った。

事業費	256,290円
自己資金	156,290円
助成金	100,000円



平成 26 年度事業の成果

平成 25 年度より自主防災に関する「栗防通信」を発行し、栗ヶ沢中学校地域のおよそ 5500 世帯に配布を行った。アンケート調査では、およそ 40%の方が栗防通信を知っていると回答し、その認知度は高くなってきたと考える。水の備蓄に関しては、約 15%の方が全く備蓄を行っておらず、平成 25 年度アンケート調査から改善は見られなかった。

平成 27 年度事業の目標

平成 27 年度松戸市協働事業として自主防災に関する告知(栗防通信の発行および講演会)を継続し、自主防災をより実践していただく。また、収容避難所開設運営訓練も行い、開設運営の方法をより多くの方々に知っていただく。更に、災害時の災害弱者に対する救護方法を探るべく、医療関係者・行政等の方々と話し合いを行っていく。

【事業者紹介】

栗ヶ沢中学校地域防災委員会

構成団体：小金原五丁目町会、小金原 6-7 住宅組合、小金原団地自治会、小金原七丁目東町会、小金原七丁目西町会、小金原八丁目町会、小金原九丁目町会、小松園自治会、栗ヶ沢連合町会、他

《問合せ先》栗ヶ沢中学校地域防災委員会

電話・FAX 047-330-4704

Eメール kuri.dpc.root@gmail.com

ホームページ：https://sites.google.com/site/kuridpc/、

担当者 岩崎義仁

市民後見人養成講座事業	団体名	認定NPO法人 東葛市民後見人の会
--------------------	-----	------------------------------

【事業内容】

平成 26 年度事業の取り組み

- 1 当会は判断能力が低下してもいつまでも住み慣れた場所で生活できる街、「市民が市民を支える」社会の実現を目指して活動している。
- 2 成年後見制度は認知症高齢者や知的・精神障害など判断能力が不十分な方を法的側面から支える重要な制度だが、その利用は極めて低く、制度の内容を理解し利用を高めていくことが超高齢化社会においては大変重要なことと考えている。
- 3 成年後見制度の普及・啓発活動において中心的役割を担える人材「市民後見人」の養成が大切である。平成 27 年 1 月～2 月、延べ 4 日間の「市民後見人養成講座」を開設した。市内各所から 45 名の方が講座に参加し受講した。(講座の受講風景：松戸商工会議所 5 階中会議室)

事業費	365,819円
自己資金	281,419円
助成金	84,400円



平成 26 年度事業の成果

市内で 4 日間の「市民後見人養成講座」を開催した。

開催時期：平成 27 年 1 月 17 日（土）、24 日（土）、31 日（土）、2 月 7 日（土）

各日とも午前 9 時から午後 5 時

会場：松戸商工会議所

講師：成年後見制度に係る各分野で一流の方、及び松戸市の関連部署及び関連団体の方

参加者：募集人員 50 名、参加申し込み 53 名、受講修了者 45 名

参加者は非常に熱心に講座を受講し、「大変勉強になりました!」「非常に良い機会を得ることができました!」「さらに勉強を深めたい!」等の感想を述べられた。

成年後見制度に対する理解が深まり、今後参加者の方の市民後見活動への関わりが大いに期待できる。

【事業者紹介】

- 1 26 年 3 月に弊会では「認定資格」を取得し NPO 法人から「認定 NPO 法人」となった。益々活発な市民後見人活動を展開していく。
- 2 弊会はボランティア精神と社会貢献という理念のもとに集まった元気シニアや主婦などによる主体的・自発的な市民活動を行っている。
- 3 27 年度も成年後見制度に関する講演会、講習会、相談会、市民後見人養成講座の開催を計画している。

《問合せ先》 認定 NPO 法人 東葛市民後見人の会 松戸支部

電話：047-344-1834

Eメール：y-h-1410@ka1.koalanet.ne.jp

担当：堀井

<p>外国人の子どもと日本人の子ども が触れ合う集い事業</p>	<p>団体名</p>	<p>認定 NPO 法人 外国人の子どものための勉強会</p>
---	------------	--

【事業内容】

平成 26 年度事業の取り組み

現在松戸市民の 40 人に 1 人が外国人で、市内の小・中学校にも外国にルーツを持つ子どもが多く学んでいる。外国から来た子どもの多くは日本語で話すことは割合早く出来るようになるが、学校の授業についていくのに苦労している。また友だちが出来にくいという悩みを抱えている。

そこで、外国人の子どもと日本人の子どもが学校以外の場で、世界にはいろいろな国がありいろいろな文化・習慣があることを学び、友だち作りを目指す体験型交流ワークショップを開催した。

「外国人の子どもと日本人の子どもが触れ合う集い」事業
ー世界の国の違いに触れて新しい人と友だちになろうー

- 第 1 回 平成 26 年 5 月 10 日（土）13：30～15：30 稔台市民センター・第 1 ホール
- 第 2 回 平成 26 年 9 月 6 日（土）13：30～15：30 常盤平市民センター・第 1 会議室
- 第 3 回 平成 26 年 12 月 6 日（土）13：30～15：30 青少年会館・集会室

事業費	119,404円
自己資金	19,404円
助成金	100,000円



平成 26 年度事業の成果

体験型交流を通して、世界各国の異なった文化・習慣を学んだ。外国人の子どもが力いっぱい話し、日本人の子どもが圧倒される場面が多くみられた。お互いを理解し友だち作りが出来た。

- 第 1 回「日本の行事・世界の行事」 対象：松戸地域の子どもの親 参加者：44 名
- 第 2 回「世界の食べ物・スイーツ」 対象：常盤平地域の子どもの親 参加者：50 名
- 第 3 回「世界のクリスマス・正月」 対象：新松戸地域の子どもの親 参加者：14 名

平成 27 年度事業の目標

外国から来た子どもの現状を知り、子どもたちのアイデンティティを理解し外国人の子どもにはどんな支援が必要かを考える「外国人の子ども支援を考える事業」を行う。

- 第 1 回「本音で語ろう！外国人の子ども事情 PART 1」6 月 14 日（日）稔台市民センター
- 第 2 回「本音で語ろう！外国人の子ども事情 PART 2」11 月の日曜日、松戸市民会館にて開催予定

【事業者紹介】

外国から来た子どもたちに日本語や教科支援を行って 20 年になる。現在小学生 21 名・中学生 28 名・高校生など 16 名の計 65 名が集まってきている。スタッフは 32 名。

出身国とは異なる環境の中、頑張っている子ども一人ひとりに寄り添い支援をしている。

《問合せ先》認定 NPO 法人 外国人の子どものための勉強会

松戸市新松戸 7-517

電話・FAX 047-345-2051

Eメール gaikokukodomo@msn.com

ホームページ <http://gaikokukodomo.wordpress.com>

<p>伝えたい大震災の記憶・学びたい大震災の体験の講演会等イベント事業</p>	<p>団体名</p>	<p>東日本大震災復興支援 松戸・東北交流プロジェクト</p>
--	------------	--

【事業内容】

<p>平成 26 年度事業の取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 避難者の力を借りて、松戸の防災を考えるきっかけを作りたい。 2 避難者が、松戸市民の中で生活していく力をつける。 3 大震災を忘れないように、繰り返し発信が必要。 <p>以上の理由から、この事業を計画した。</p> <p>午前中は、コープみらいの皆さんを講師に、「日常食を非常食に作り変える」という表題の下、メニュー作り・簡易器づくり・非常食の試食を実施した。</p> <p>午後は、名取市在住櫻井広行氏に避難所での体験について講演をいただいた。</p> <p>その後、パネルディスカッションへと進み避難者も講師として登壇した。</p> <p>避難時、生活弱者には格別細やかな配慮が必要と避難者からアドバイスがあった。</p> <p>その後参加者と意見交換が時間のある限り行われた。</p>	<table border="1"> <tr> <td>事業費</td> <td>165,286円</td> </tr> <tr> <td>自己資金</td> <td>65,286円</td> </tr> <tr> <td>助成金</td> <td>100,000円</td> </tr> </table>	事業費	165,286円	自己資金	65,286円	助成金	100,000円
事業費	165,286円						
自己資金	65,286円						
助成金	100,000円						
 <p>午前：メニュー作り・試食など</p>	 <p>午後：パネルディスカッション</p>	 <p>2014年9月9日(火) 東京新聞朝刊26面(千葉中央版)</p> <p>東京新聞報道</p>					

平成 26 年度事業の成果

- 1 事前のアンケート調査は、事業を行う上で市民の考えが見えて良かった。アンケート回収 91/569
- 2 当日の参加者 71 名。当日アンケート実施。市民も防災に関心を持った。
- 3 取材 NHK 他 5 社。大震災が忘れられないように繰り返し発信することの大切さの効果。
- 4 他団体（コープみらい・栗ヶ沢中学校地域防災委員会）2 団体の協力を頂いた。
- 5 避難者 3 名パネルディスカッション講師として参加。市民の中で役立つことの力強さを実証。

平成 27 年度事業の目標

- 1 引き続きサロンを運営する中で、「黄色いハンカチ利用者の会」「自主避難を語り合う会」避難者自主組織が立ち上がった。
- 2 伝えたい大震災の記憶・学びたい大震災の体験の講演会等イベント事業 part 2 を実施する。9 月 6 日に決定した。
- 3 減災マップ作りと講演会講師も決まっている。大学生にもマップ作りで参加してもらう。

【事業者紹介】

東日本大震災避難者の想いに添った長期的な支援活動を念頭に置いて活動している。

松戸・東北交流サロン「黄色いハンカチ」を運営している。

「黄色いハンカチ」は、「避難者同士の交流の場」「避難者と市民の交流の場」「相談の場」「自立支援の場」など多彩の機能を持っている。

《問合せ先》東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクト

〒271-0092 松戸市松戸 1834-5 小川ビル 2 階

電話 047-710-5519 FAX047-710-5546

Eメール yellowhandkerchief1834@gmail.com 代表 古宮 保子

けん玉で遊ぼう事業	団体名	昔のあそびと遊ぼう会
------------------	-----	-------------------

【事業内容】

平成 26 年度事業の取り組み

昔の遊びの中でも、「けん玉遊び」は、六実地区の小学校だけでなく、他地区の小学校（馬橋地区、常盤平地区、梨香台地区、小金地区等）から教えて欲しいとの要望があり、根強い人気のあるあそびである。

けん玉遊びを通して、子供達に技が出来た時の喜び・達成感を味わってもらいたい。また努力して目標の技ができるようになることで、継続して努力する大切さを体感してもらいたい。また技が上達した子供にも継続して上達できるような環境を整えたいと思っている。

そのために日本けん玉協会と協力し、全国のけん玉名人の技と一緒に学び、研鑽できるようにしてきた。

親・子・孫が一緒に遊び、世代間コミュニケーションを図れるような場である「けん玉教室」を継続して開催してきた。

事業費	100,842円
自己資金	46,842円
助成金	54,000円



平成 26 年度事業の成果

年 12 回（毎月）けん玉教室を開催でき、月平均 3 2 名（計画 2 0 名）の方が参加してくれた。また参加者は、市内各地域（六実、六高台、五香、常盤平、上本郷、新松戸、紙敷、東松戸、古ヶ崎、小金、西馬橋）、及び市外（鎌ヶ谷、柏、船橋、我孫子、市川、印西、木更津、千葉、三郷等）から来ている。最近では、40名を超える方が参加され、写真の様に大人と子供と一緒に楽しんでいる。また、けん玉の有段者も複数誕生している。

平成 27 年度事業の目標

この教室を継続し、大人と子供と一緒に遊べ、楽しめる場を提供していきたい。継続し開催するために、けん玉協会との人の交流及び講師の派遣をお願いしていく。また会でも講師の資格、級段位取得に努力するとともに会員を増やしていきたい。段位を取得した人に対して、継続して学べるように高段者を招へいするようにしていきたい。

【事業者紹介】

毎月 第 1 土曜日 13:30～15:30 「昔のあそび」を六実市民センターで開催（参加無料）
 毎月 第 3 土曜日 14:00～16:30 「けん玉教室」（H27年松戸市市民活動助成事業）を六実市民センターで開催（参加無料）

《問合せ先》「昔のあそびと遊ぼう会」

〒270-2204 松戸市六実2-52-10

電話・FAX 047-387-1522

会長 白石 彌登美

<p align="center">日帰り滞在型観光 「“葵の里”観光ガイド(チラシ) の作成」事業</p>	<p align="center">団体名</p>	<p align="center">まつど学びの旅推進協議会</p>
---	---------------------------	---

【事業内容】

平成 26 年度事業の取り組み

現状の課題

- 1 松戸市内に多くある名所・史跡が市内在住の方々も含めて知られていない。
- 2 市内観光スポットとなり得る場所が点在しているが、それを結ぶルートが整備されていない。
- 3 市役所や各種団体がそれぞれ独自の市内ガイドマップやチラシを作成しているが、利用者のニーズに合っていない。

事業費	144,869円
自己資金	54,869円
助成金	90,000円

成果目標

松戸市内に多くある名所・史跡を知ってもらう活動(「学びのウォーク」)を定期的で開催して、下記の成果を実現する。

- 1 松戸市への来訪者を増やす。
- 2 地域商店等の活性化に応援する。
- 3 実践した「学びのウォーク」のルートは会のホームページでの掲載と実施毎に企画する広報用チラシを活用する。

事業内容

上記、成果目標を実現するために「日帰り滞在型観光「葵の里」観光ガイド(チラシ)の作成」事業を実施する。この観光ガイド(チラシ)は、代表的なコース(6コース程度)に絞って作成する。

平成 26 年度事業の成果

- 1 推進協議会での検討会と散策マップ作成
 - (1) 月例推進協議会での検討(2014年5月から11月まで5回)
 - (2) 2014年12月 散策マップ(3,000部)印刷・完成
 - (3) 2015年1月 散策マップ配布(2,000部)、配布先:市民自治課、観光協会、JR松戸駅他
- 2 散策マップ作成発表会の実施

2015年3月6日(勤労会館3階ホール) 特別講演「まつど散策マップ事業に期待する」(講師:松戸社会教育委員会(委員長))と特別発表「万作踊り松戸保存会」、参加者60名



【事業者紹介】

松戸に於ける産・官・学・NPO団体などのつながりを活用し、新しい形の観光地づくりの課題に取り組むことによって、松戸の様々な地域資源を掘り起こし、住んでよいまち、訪ねてよいまち松戸を創るまちづくり活動をしている。この観光を通じた松戸の活性化活動から松戸ブランドの創造を目指している。

《問合せ先》

まつど学びの旅推進協議会

千葉県松戸市新松戸7-222-D203

電話・FAX: 047-341-6643 Eメール: y-kaneko@jj.e-mansion.com

ホームページ まつ旅ドットコム (<http://www.matsutabi.com/>) 担当者:金子雄二

<p>「知っておくと安心！食品の安全な取り扱い手帳」の作成事業</p>	<p>団体名</p>	<p>食の安全安心を考える市民の会</p>
--	------------	------------------------------

【事業内容】

平成 26 年度事業の取り組み

- 「消費者の目線に立った易しい食品の取り扱い手帳を発行したい」の思いが実現することになった。
- 難しく論文形式で書いた文章をA5版32ページに収まるようにそぎ落とし、カラー刷り・イラストの多い手帳に完成させた。
- 素晴らしいイラストレーターとの出会いがあった。
- 松戸市消費生活展に出展し、広報活動に努めた。松戸市市民活動見本市でお披露目できた。
- NPO 法人子どもっとまつどに招かれて、小学生に食育&食の安全講座を行った。(作ってみよう！私のお弁当) 参加児童 20 名 全4回講座
- 手帳完成報告会では、子育て中のお母さんとの出会いがあり、手帳を手渡すことができた。

事業費	136,022円
自己資金	36,022円
助成金	100,000円



松戸市消費生活展



作ってみよう！私のお弁当



手帳完成報告会で

平成 26 年度事業の成果

- A5版32ページの手帳20冊完成した。
- 小学生に食育&食の安全講座参加のお母さんに20冊配布が済んだ。
- 松戸市消費生活展に手帳完成が間に合わなかったのが残念であった。
- 市民活動見本市では、手帳次年度確保のため20冊のみ配布した。
- この手帳完成のため、メンバーは手分けして作業に当たり組織が強化された。

手帳の表紙



平成 27 年度事業の目標

- 「知っておくと安心！食品の安全な取り扱い手帳」を市民に手渡ししたい事業のため、講座を行う。
- 講演会 10月23日(金) (講師：雪印食品社外取締役日和佐信子氏) と料理教室2回予定
- 子どもっとまつど (作ってみよう！私のお弁当) 事業に講師として参加する予定 (2人)。
- 冊子の増版に資金不足のため、企業に働きかけ支援をお願いしてみる。(4月末現在120冊残数)
- 手帳内容は、表現の改良・法律の改正などが予測され改版が必要になる。

【事業者紹介】

千葉大学園芸学部公開講座を受講した仲間で立ち上げた。

学んだことを社会に還元したいとの思いから、食品の安全な取り扱いについて出版しようと発案が持ち上がった。素人ながら書き溜めて、平成26年度手帳を発行することができた。次は、広報活動を行い、市民の皆さんにお渡ししていく。

《問合せ先》 食の安全安心を考える市民の会

電話 090-9963-8980

Eメール meri-meri@kit.hi-ho.ne.jp 担当 古宮保子

<p>働きたい子育て中の主婦のための 在宅パソコン講習事業</p>	<p>団体名</p>	<p>特定非営利活動法人 就労サポート・キャリアプラス</p>
--	------------	--

【事業内容】

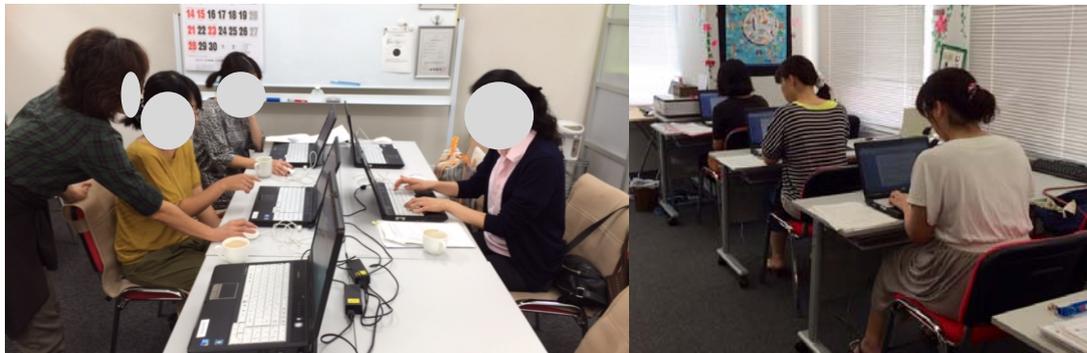
平成 26 年度事業の取り組み

子育てと両立しながら働きたい、働くことで社会と繋がりを持ちたいと願っている子育て中の主婦は少なくない。この松戸市でも、実際に働いていない母親の 88.1%が、将来的に仕事と家庭を両立できるパート・アルバイトによる就労を希望していると、松戸市次世代育成支援に関する調査報告書（平成 21 年 3 月）で報告されている。

しかし子育て中の母親にとって、結婚前・育児をする前にはそれほど重要ではなかったパソコンスキルが、今現在どんな仕事に就くとしても求められており、これから再就職をするためには最低限パソコンスキルを身に付けることが必要になっている。

そこで私達団体は、eラーニングを活用した在宅パソコン講習を実施し、松戸市の子育て中の母親の方々に対する再就職支援を行った。（写真は月に 2 回の集合講習会の様子）

事業費	206,100円
自己資金	106,100円
助成金	100,000円



平成 26 年度事業の成果

当初掲げていた目標（四半期ごとに受講生の半数以上が職場で最低限求められるパソコン操作のレベルに達すること。※講師評価で）に関して、受講生の全員が目標に達したこと、さらに、この事業に参加した受講生の 19 名中 9 名が、この事業を通して事務として再就職を果たすことができ、19 名中 2 名の方が事務ではありませんが、パソコンを使用する仕事に就くことができた。パソコンの電源の場所すらわからなかった方がエクセルでいろいろな関数を用いた表を素早く作れるようになったことなどの目に見える成果を実感している。

【事業者紹介】

《問合せ先》

特定非営利活動法人 就労サポート・キャリアプラス
 千葉県松戸市根本 122 番地の 2 朝日松戸プラザ 2 階
 電話 047-711-9468
 FAX 047-711-9469
 Eメール c.plus0801@gmail.com
 ホームページ : <http://www.c-plus.org/>
 担当者 : 住吉

* 協働のまちづくり基金 *

平成26年度は 市民活動助成事業

8事業 を応援しました!!

<p>自主防災告知と 訓練事業</p> <p>(P.2)</p>	<p>市民後見人 養成講座事業</p> <p>(P.3)</p>	<p>外国人の子どもと 日本人の子どもが 触れ合う集い事業</p> <p>(P.4)</p>	<p>伝えたい大震災の 記憶・学びたい大震 災の体験の講演会 等のイベント事業</p> <p>(P.5)</p>
<p>けん玉で 遊ぼう事業</p> <p>(P.6)</p>	<p>日帰り滞在型観光 「“葵の里” 観光ガ イド(チラシ)の 作成」事業</p> <p>(P.7)</p>	<p>「知っておくと安 心！食品の安全な 取り扱い手帳」の 作成事業</p> <p>(P.8)</p>	<p>働きたい子育て中 の主婦のための 在宅パソコン 講習事業</p> <p>(P.9)</p>

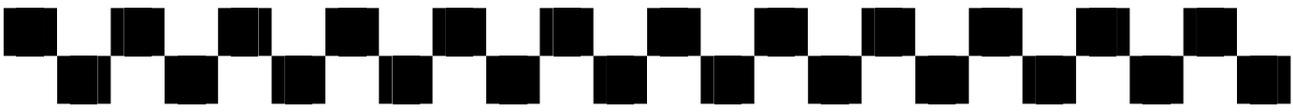
【 協働のまちづくり基金とは 】

市民、市民活動団体、事業者の皆様から寄せられた寄附金及びその同額を市費で積み立てるマッチングギフト方式を取り入れた基金です。この基金がまちを明るく元気にする「市民活動助成制度」の原資となっています。

市では、皆様からの寄附金のほか、チャリティー自動販売機の設置を通じて基金を育成しています。市民の皆様のご協力をよろしくお願いします。

HP [松戸市トップページ](http://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/shiminkatsudou/kyoudou_machidukuri/kikin/index.html)>くらし>市民活動>協働のまちづくり(市民活動の活性化と協働の推進)>協働のまちづくり基金

http://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/shiminkatsudou/kyoudou_machidukuri/kikin/index.html



協働のまちづくり基金 寄附者一覧 (平成26年度)

ご寄附頂きました皆様にお礼申し上げます。

★東京キリンビバレッジ株式会社 柏営業所

★ジェイティエースター株式会社

★コカ・コーライーストジャパン株式会社 松戸支店

★株式会社 八洋 柏営業所

★洗濯屋あべ

★まつど似顔絵倶楽部

※公開希望のみ掲載

(申込受付順)



平成27年5月

発行

松戸市 市民部 市民自治課

〒271-8588 松戸市根本387-5

TEL 047-366-7062

FAX 047-704-4009

E-mail mshiminjichi@city.matsudo.chiba.jp